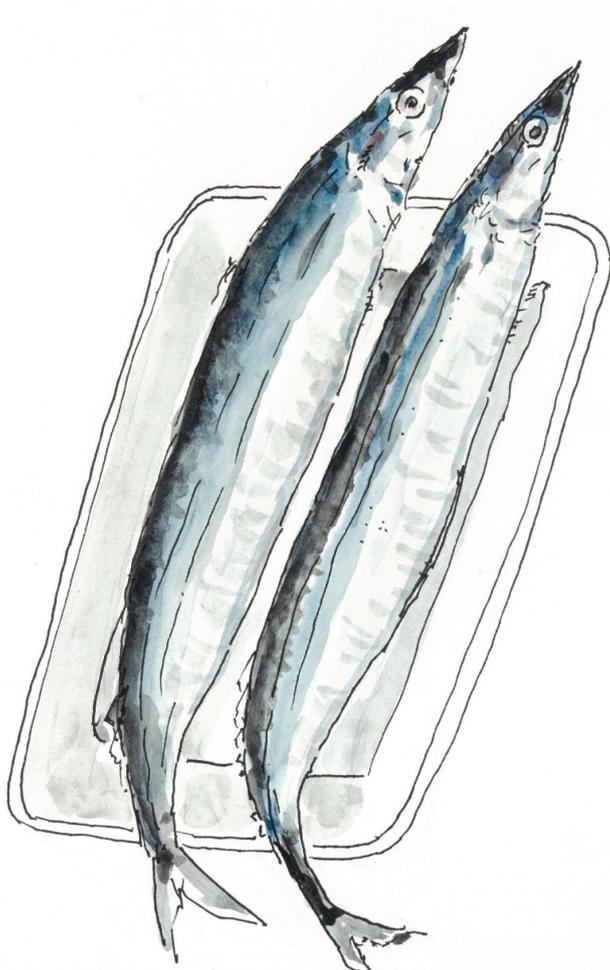


さんま



175号



2004.8.18 今宵和歌山より届く 小嶋房夫

【さんま】

和歌山より届けてくれたおいしそうな秋刀魚は、夕食になる前に画材になってくれた。
いきいきとした新鮮さがうまく描けたみたい。

小嶋 房夫(経営工学)

目 次

[項 目]	[執筆者]	[頁]
表 紙 さんま	小嶋房夫	1
巻頭言 技術力を集結してコロナ禍を乗り越えよう	甘利哲夫	3
近畿本部/支部 報告・予告		
理事会だより (2020-No. 2)	河野千代	4
2020 年度第 2 回役員会議事録 (案)	田岡直規	8
部会/活動グループ 報告・予告		
近畿本部 情報工学部会	野原英則・本多利行	12
近畿本部 環境研究会・化学部会・繊維部会・農林水産部会	藤橋雅尚	15
近畿本部 技術士業務研究会	三木茂男	16
近畿本部 機械システム部会	河島 巖	16
近畿本部 関西食品技術士センター	戸口昌俊	16
特集：新型コロナウイルス		
新型コロナウイルス禍で「オープンスペース」の重要性を再認識	平井住夫	17
新型コロナウイルスを情報工学的視点で考察する	本多利行	18
情報工学部会での Web 会議システムを活用した CPD 提供	本多利行	20
金属の抗菌作用	和田 仁	22
ソーシャルディスタンス、ソーシャルディスタンス、 フィジカルディスタンスって？	犬飼保夫	24
テレワークあれこれ	匿名	25
コロナと我が家の家計簿	匿名	26
新型コロナウイルスとの共生	加藤裕造	27
新型コロナ禍での物流状況	寺島 弘	28
コロナ禍での建設コンサルタント	小坂慎也	29
コロナとの共存	古川正明	32
コラム		
マレー語とインドネシア語	川口俊雄	38
編集室だより		
みなさんの原稿大募集	「きんき」編集室	14
「きんき」オンライン編集会議 (第二報)	「きんき」編集室	39
9-10 月行事予定	「きんき」編集室	40
編集後記	宮崎 剛	40

技術力を集結してコロナ禍を乗り越えよう

近畿本部建設部会長 甘利 哲夫

令和2年はコロナ禍が席卷し、社会・経済状況が不安定化する予兆が感じられる年である。近年における我が国の年号の変わり目は混乱から始まっているようである。

昭和は大正時代の第1次世界大戦の戦勝ムードによる急激な経済の拡張の反動と関東大震災後の震災手形の影響が、アメリカ発の恐慌と重なり、昭和金融恐慌を引き起こして始まった。

平成は、株価や不動産価値が実態と大きくかけ離れたバブル経済が崩壊し、やはり不況で始まっている。しかし、いずれの時代も20年から30年の歳月を経て景気は回復している。

今回も「負けへんで!!絶対にひっくり返したる」(お好み焼きチェーン「千房」の標語)の精神で一刻も早い経済回復を具現化する必要がある。

私の専門分野である建設業界は、景気が低迷すると経済の下支えを行うべく公共事業予算が増加されるのが常である。しかし、現場単品生産、労働集約型産業である建設現場において、いかに【3密】を避け、生産人口・熟練工の減少が進むなか高品質、工期厳守を担保するかが課題となる。

この解決策の1つが【技術の総合技術化】であると思う。建設現場では、毎朝朝礼やKYミーティングが1か所に集まり行われているが、ウェアラブル端末を用いることで離れていても行えるようになる。また、重労働を補助するアシストスーツ、交通誘導員のロボット化などはすでに開発された技術であるが、より高度化を目指した技術開発が必要である。また、近年激甚化する豪雨災害等の情報伝達に情報・通信技術を駆使していち早く危険を知らせるシステムや、自動車の自動運転技術をサポートする交通情報の伝達技術、また、建設現場での労働人口減少下での生産性向上に無人化機械の高度化など建設技術と他の専門技術の融合を加速化する必要がある。

これら以外にも建設産業の働き方改革、生産性向上のための技術開発が必要であるが、建設部門だけでは今後必要となる技術開発は困難である。他の専門分野の技術と複合的に組み合わせ、ニーズに応じた技術を提供できる体制の構築が重要である。

日本技術士会には20部門の専門分野が存在するが、これらの専門分野が協同し、いかに令和の時代にふさわしい技術開発をするか期待が高まる場所である。